

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

智慧と空性

著者	アジャ リンポチェ, 堀内 俊郎
雑誌名	国際哲学研究
号	3
ページ	41-42
発行年	2014-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00006682/



智慧と空性

アジャ・リンポチェ

翻訳：堀内 俊郎

智慧の実践では、自己と一切の現象の本質を吟味します。これには分析的な瞑想が必要となりますが、その瞑想は、逆に、集中され、不動で、静かな心に依存します。

自己と一切の現象の本質を吟味した後に、瞑想者は、一切のものは常に変わっており、ある瞬間に「そうである」と見えるものは、次の瞬間には「そうではない」ということを経験します。かつて種であったものは植物となり、さらには縄として編まれます。一滴の水は流れとなり、やがては川となります。そして、蒸発し、ついには雨となって再び地上に降ります。常に流れがあるわけです。つまり、一つのものが他のものに变化するのです。同じように、自己は移り変わります。

みなさんは決して自分自身で生きているわけではありません。みなさんは家族や社会や文化の中で生きています。常に他人と相互に触れ合っています。すべてのもの、すべての人が関連しています。わたしたちの諸のカルマ（行為）は、わたしたちの宇宙（世界）—外であれ身体的であれ内面的であれ—を生み出す原因や条件（縁）のもととなります。

ブッダが業について説明したように、

「これある時それあり。これ生ずるによりてそれ生ず。これ無きによりてそれ無し。これ滅するによりてそれ滅す」

です。

瞑想者は、この相互依存（縁起）、この相互連関を、外の宇宙（＝外界）の構成要素と、彼自身の世界である五つの集まり（五蘊）と、彼の心という内面の宇宙とを吟味することによって、悟ります。

彼は、外の宇宙は、地・水・火・風・空という五つの元素から成ることを見ます。まったく同様に、わたしたちの個人の宇宙・わたしたちの「自己」は、五つの集まりから成ります。最初の集まりであるわたしたちの身体や形（＝色蘊）は、外の宇宙の諸要素に対応します。すなわち、わたしたちが住んでいる宇宙とまったく同様に、わたしたちの身体は、地（物質）・水（液体）・火（体温）・風（呼吸の力）・空（内にあるもの）からできています。さらに、わたしたちの五感も、五つの要素を象徴します。すなわち、視覚対象は空、音声は水、においは地、味は火、接触は風を〔象徴します〕。

同様に、心という内面の宇宙は、五つの肯定的、五つの否定的な特徴を持っています。それらは、外界の五つの元素と、色蘊とそれに対する五感に対応します。

- ・地（物質とにおい）は、平等性という美德（＝平等性智）と、その反対である傲慢という幻想です。
- ・水（液体と音声）は、鏡のような智慧（＝大円鏡智）と、その反対である怒りもしくは憎しみを体現しています。
- ・火（体温と味）は、区別する智慧（＝妙観察智）と、その逆である欲望もしくは貪欲を表します。
- ・風（呼吸と接触）は、一切を完成する智慧（＝成所作智）と、〔逆である〕嫉妬や恐怖という幻想に順応します。
- ・空（〔わたしたちの〕内にあるもの（＝空間）と視覚対象）は、すべてを含む智慧（＝法界体性智）と、その反対である無知や幻想を表します。

私たちの宇宙のすべて—外であれ身体的であれ内面的であれ—は、相互に鏡のように映し出し合っています。す

べてのものは、対応する関係の中で、相互に関連しています。

瞑想者がこれらすべての関連を経験した時、彼は独立した自己が空であること、一切の現象が空であることを悟ります。彼は智慧を得たのです。この智慧には慈悲が必要です。なぜならば、瞑想者は苦しみの中（≡多くの苦しんでいる人たちがいる中）では幸せではいられないからです。それはあり得ないことです。